

令和4年6月24日

(仮称) 米沢市立南西中学校新設設計業務公募型プロポーザル審査結果報告書

1 審査結果

受託候補者

受付番号 21 本間利雄設計事務所・昭和設計 設計共同体 評価点 292点

次点候補者

受付番号 23 楠山設計&中村勝義建築事務所設計共同体 評価点 267点

2 参加表明者

10者

3 審査委員会委員

区分	役職名等	氏名
委員長	山形大学工学部 建築・デザイン学科 教授	三辻和弥
副委員長	東北工業大学建築学部 建築学科 教授	福屋粧子
委員	山形県県土整備部建築住宅課営繕室 営繕室長	長谷川学
委員	米沢市副市長	大河原真樹
委員	米沢市教育委員会教育長	土屋宏

4 審査過程

①審査委員会事前打合せ

日時：令和4年5月30日（月）午前9時00分から

場所：建設予定地、市役所303会議室

内容：建設予定地を視察した後、選定スケジュール、選定方針、評価項目及び評価基準等について確認を行いました。

②第1次審査委員会

日時：令和4年6月3日（金）午後1時30分から

場所：市役所委員会室

内容：参加者名を伏せた上で、客観評価の確認及び技術提案書の書類審査を行い、

第2次審査への参加を要請する5者を選定しました。

③公開プレゼンテーション及び第2次審査委員会

日時：令和4年6月15日（水）午前9時30分から

場所：市役所庁議室

内容：公開プレゼンテーションを実施し、参加者から技術提案に関する説明を受けるとともに、審査委員会委員によるヒアリングを行いました。

プレゼン等終了後、第2次審査委員会を開催し、技術提案書の最終審査を行い、受託候補者及び次点候補者を選定しました。

5 審査委員会委員長の講評

米沢市では、米沢市立第二中学校及び同第三中学校を統合し、令和8年4月より（仮称）米沢市立南西中学校として開校することを計画している。両中学校の統合計画に際し、現在の第二中学校敷地に校舎及び屋内運動場の建て替えを計画しており、令和4年3月に（仮称）米沢市立南西中学校施設整備基本計画（案）をまとめ、パブリックコメントを実施して市民から広く意見を募集した。その後、寄せられた意見について検討し、（仮称）米沢市立南西中学校施設整備基本計画（以下、「基本計画」という。）を策定した。新校舎が基本計画に基づいた機能・特徴を有する施設となるよう、公募型プロポーザルを実施し、技術力や提案内容に優れた本事業に最適な設計者の選定を行った。

技術提案に当たっては、特定テーマとして以下の5つのテーマを掲げ、基本計画に沿ってこれらテーマの具現化に向けた提案を求めることとした。

テーマ1：安心・安全な学校施設と快適な学習環境の確保

テーマ2：周辺環境と利便性等に配慮した建築計画

テーマ3：環境負荷の低減と将来に渡る建物維持管理費用の縮減対策

テーマ4：地域の特性に配慮した計画

テーマ5：設計者からの提案

このほか、本事業への「取組方針・実施体制」、「建設コストの縮減」を評価基準に加え、基本計画に定められた理念や基本方針を十分に理解し、本事業の課題解決に関する高度な設計能力及び豊富な実績等を有する設計者を選定するためのプロポーザル実施要領等の資料を作成し、広く公募を行ったところ、10者からの参加表明があった。

設計者を選定するに当たり、（仮称）米沢市立南西中学校新設設計業務公募型プロ

ポーザル審査委員会（以下、「審査委員会」という。）を設置し、審査方針・方法等について議論した。審査委員会は建築、行政、教育の専門家から構成されており、それぞれの専門の立場から、今回の設計業務に最もふさわしい優れた設計者を選定するため、技術提案書の評価、プレゼンテーション及び質疑応答を通して厳正かつ公正な審査を行った。

審査方法は第1次審査と第2次審査の2回の審査会によるものとし、第1次審査においては、会社概要・配置予定技術者等の客観評価及び技術提案書の書類審査により第2次審査会に進む5者を決定した。第2次審査においては、第1次審査結果の上位5者に対して公開でのプレゼンテーション及びヒアリングによる技術提案の最終評価を行い、受付番号21の提案を受託候補者として、受付番号23の提案を次点候補者として選定した。

技術提案評価の講評：

◎受託候補者（評価順位第1位）

受付番号21の提案は、雁行型の平面計画で、中央部に大階段を含む大きな吹き抜け空間を持つコモンホールと、教室に取り囲まれた光庭が特徴となっている。雁行型の平面形状を生かして、普通教室および屋外運動場が見渡ししやすい場所に位置する職員室や、音に配慮して近隣住家に背を向ける方向に配置された音楽室など、きめ細かな建築計画が評価された。審査の過程においては、特別豪雪地域における雪害対策として、雪庇防止フェンスの効果を問う声もあったが、校舎周辺の動線やテニスコートの利用などに配慮した雪押場の計画が理にかなっており、雪害対策として高く評価された。他に、外観や内装に小間屋や蔵の漆喰壁、米沢焼等の様々な「米沢らしさ」を取り入れるアイデアや、屋内運動場の床にスポーツ用長尺弾性床材を取り入れる提案などが好意的に受け止められた。

今後、提案内容の実現にあたっては、より具体的な木質化の提案や体育館の高さが現在のものよりも高くなることに対する周辺環境への配慮などを求めたい。

○次点候補者（評価順位第2位）

受付番号23の提案は、唯一、主体構造に木造を取り入れた提案であった。積雪対策とともに上部構造の軽量化を図り、1階をRC造、2階及び3階を木造としたもので、大胆な木質化の提案は好評であった。一方、集成材による木造骨組の提案は地元産木材だけでその量を賄えるかといった疑問や、昨今の木材を取り巻く事情に鑑みると、実現に当たってはコストや工期の問題が生じないかという不安も抱かせた。建築計画は教室の並ぶ南北に生活軸を、地域開放玄関からの東西の動線に交流軸を設定するユニークなものであった。学年集会等を行う「学年 commons」が南北に走る生活軸の中

央に配置されており、面積的にやや小さい印象があったが、2階の南東角で教室、屋外運動場を同時に見渡すことができる職員室の配置は評価された。北西側に配置された駐車場にはドライブスルー送迎スペースが設けられており、ロードヒーティングを採用した小間屋テラスを介して建物と接続する案は興味深いものであった。

全体として、第2次審査に進まれた5者はもとより、本プロポーザルに参加された全10者とも、業務を実施するのに十分な実績と業務体制を有していると評価された。技術提案については、いずれの案も今回の公募の基本理念を踏襲するものであり、計画・構造・環境・雪害対策等の面において、独自のアイデアが盛り込まれた優れた提案であった。特に雪庇や押雪などの雪害対策や周辺環境への配慮、米沢らしさの表現、木質化を図りつつこれからの新しい教育の場としての学校施設をどのように設計するか、といった点に各参加者の知恵を絞った様子が感じられ、各者甲乙つけがたい提案となっていた。

末筆ながら、短い期間であったにも関わらず、内容の優れた独自の提案を作成された各参加者の熱意と尽力について、心より感謝申し上げます。受託候補者におかれましては、新しく建設される学校が在校生、卒業生はじめ米沢市民の皆さんに末永く愛される施設となりますよう、今後の設計業務全般に渡り、米沢市と協議を進められることを期待します。

(仮称) 米沢市立南西中学校新設設計業務公募型プロポーザル審査委員会 委員長  
三辻和弥